

平成29年度第5回移動市長室会議録

(平成29年9月25日)

1 日 時：平成29年9月25日（月曜日）15時30分～17時

2 場 所：二日市中学校

3 出席者：

『二日市中学校生徒会』

山本生徒会長、三角副会長、海老海副会長、大隈書記、砥綿SPPリーダー、
小川生活委員長、吉田図書委員長、尾座本部長会代表（8人）
（新開校長、今村教頭、坂田教諭、烏谷教諭）

『筑紫野市』

藤田市長、上野教育長、桑野総務部長、杉村秘書広報課長、
森田秘書広報課係長、山崎秘書広報課係長、末吉秘書広報課主査

4 内 容：懇談

○（事務局） 皆さん、こんにちは。今日は、勉強で忙しい中、集まっていただいて、ありがとうございます。筑紫野市では、市民の声を市政に生かしていくこと、また、市民の皆さんに市政に関心を持ってもらいたいとの思いから、定期的に市長が地域に出向き、移動市長室を行っています。今回の移動市長室は、初めて中学生を対象として行います。次の時代を担う皆さんからたくさんの意見を聞けることをとても楽しみにして来ました。

それでは、ただいまから、平成29年度第5回、通算72回目の移動市長室を始めます。今日は、二日市中学校生徒会の活動内容や、先日結成された筑紫野市内5中学校連合体などについて、市長と意見交換を行っていきます。

初めに、藤田市長が皆さんに、御挨拶を申し上げます。

○（藤田市長） 皆さん、こんにちは。本日は、本年度5回目、通算しますと第72回の移動市長室として、筑紫野市立二日市中学校生徒会の皆さんと懇談させていただくことになりました。山本会長さんをはじめ、生徒会役員の皆さんにおきましては、移動市長室の開催に御準備をいただきましたこと、誠にありがとうございます。

さて、70回を超える、これまでの移動市長室では、市全体に関わるテーマあるいは地域の特色を生かした活動、大人の視点に立った懇談を行ってまいりました。

先日、山本会長、また、砥綿スマイルピースプロジェクトリーダー、松永書記、お三方が筑紫野市役所において、筑紫野市内の5中学校生徒会連合体発足についての報告をいただく機会がございました。その方向性に凜とした信念を持ちながら自分の考えを的確に発言する姿に、感心すると同時に大変うれしく思ったところであります。

今回、初めての取り組みとして、中学生の皆さんを対象とした懇談を行うということで、今の中学生がどんなことを感じているのか、特色ある二中の活動の数々をどのようにがんばっているのか、お話を聞けることを楽しみにしてまいりました。

本日は、短い時間ではありますが、皆さんの若い、そして、柔らかい視点での意見を期待し、有意義な懇談会になりますことをお願いいたします。

後から紹介があらうかと思いますが、筑紫野市の上野二三夫教育長、桑野総務部長、そして、秘書広報課長をはじめ、関係の職員も同席させていただいておるところですので、どうぞ有意義な移動市長室になることをお願い申し上げまして、私の挨拶に代えさせていただきます。どうぞ皆さん、よろしくお願いいたします。

○（事務局） 続きまして、二中学生徒会の山本桃子会長、お願いいたします。

○（山本生徒会長） 皆様、こんにちは。本日は、二日市中学校に御来校いただき、ありが

とうございます。藤田市長をはじめ、市を運営されている皆様と直接話ができる移動市長室という機会を設けてくださって、すごくうれしいです。楽しみにしていました。

先日は、砥綿と私とで5中連合体の報告を市長さんのほうにさせていただいたのですが、今日は1年間ともに生徒会活動を頑張ってきた3年生と参加をさせていただきます。生徒はみんな緊張をしています。準備不足なところとかもあるとは思いますが、私たちが日ごろ大切にしていることとか思いをお伝えできたらと思っています。

また、正直言って市政のこととかよくわからないことだらけです。たくさん今日は勉強をさせてください。短い時間ではありますが、よろしくをお願いします。

○（事務局） ありがとうございます。

ここで、本日の参加者の自己紹介を行っていきます。まず市のほうから行います。私は本日の進行を務めます秘書広報課の杉村です。どうぞよろしくお願いします。

○（上野教育長） 皆さん、こんにちは。本市の教育長をさせていただいております上野二三夫です。本日はどうぞよろしくお願いします。

○（桑野総務部長） 皆さん、こんにちは。総務部長の桑野です。皆さん緊張されていると思いますけど、力を抜かれて、私のほうもちょっと緊張しちゃいますので、よろしくお願いします。

○（秘書広報課） 秘書広報課秘書担当係長の森田です。

○（秘書広報課） 秘書広報課広報広聴担当係長の山崎です。

○（秘書広報課） 秘書広報課広報広聴担当の末吉です。

○（事務局） 続きまして、生徒会の皆さん、お願いいたします。

○（山本生徒会長） 生徒会長をしています3年山本桃子です。よろしくお願いします。

○（三角副会長） 副会長をしています3年の三角です。

○（海老海副会長） 副会長をしています3年の海老海です。

○（大隈書記） 書記をしています3年の大隈です。

○（砥綿SPPリーダー） スマイルピースプロジェクトリーダーをしています3年砥綿です。

○（小川生活委員長） 生活委員長をしています3年の小川準弥です。

○（吉田図書委員長） 図書委員長をしています3年の吉田です。

○（尾座本部長会代表） 部長会代表をしています3年の尾座本です。

○（新開校長） 本校校長の新開です。よろしくお願いします。

- （今村教頭） 本校教頭の今村です。
- （坂田教諭） 生徒会を担当しております坂田です。
- （鳥谷教諭） 同じく、生徒会担当の鳥谷です。
- （事務局） ありがとうございます。それでは、活動報告をお願いいたします。進行を生徒会の皆さんにバトンタッチいたします。
- （大隈書記） 今から二日市中学校生徒会の活動報告を行います。

初めに、二日市中学校生徒が校訓「敬・愛・信」と同じくらいに日々意識し、活動の柱としているものを説明します。

1つ目の柱は、「人権」です。人権とは、みんながありのままの姿で安心して生活できること。仲間との違いを認め合い、互いに高め合っていくことと私たちは考えています。そのような意識を高めていくために、日々の委員会や係活動はもちろん、体育会や文化発表会などの学校行事に取り組んでいます。

活動では、仲間とのかかわりを大切にし、目標だけを満たすのではなく、どのような姿になりたいのか、何のために頑張るのかといった過程、目的を明確にして取り組んでいます。このようにして、二日生一人一人の人権意識を高め、世の中から差別をなくしていく気持ちや行動力を高めています。

2つ目の柱は、「平和」です。平和とは、戦争がない世界だけではなく、全ての人が差別や抑圧を受けない世界のことだと、二日市中学校平和宣言でうたっています。

その具体的な活動として、毎年、8月6日に行っている平和集会・平和劇があります。1988年から続く伝統行事で、途中2年間の休止期間もありましたが、復活し、今年で復活10年目を迎えました。今まで、沖縄戦や福岡大空襲など、国内で起きた戦争の出来事をテーマに劇を行ってきました。一昨年前は大陸で起きた悲劇「引き揚げ」について取り上げました。そして、復活10周年目の節目に行った平和劇では、「差別と人権」をテーマに、広島・長崎・福島・水俣での差別について取り上げました。

意見交流会では、平和について、身近な問題としてさまざまな意見を出し合いました。さらに、平和劇だけではなく、二日市中学校では、沖縄慰霊の日や東日本大震災などの節目の日には放送を入れ、常に自分たちの周りの平和について考える活動を行っています。

3つ目の柱は、「共生」です。共生とは、人は違って当たり前、その違いを理解し、認め合い、受けとめ、ともに高め合っていくことととらえています。特別支援学級ひまわりの仲間との交流を初め、仲間づくりについて、班長たちで話し合いを設けたりしています。

今年の体育会では、地域が1つになるために、地域の方々とフォークダンスを踊り、ともに楽しい時間を過ごすことができました。

- （海老海副会長） 今年度の二日市中学校生徒会目標・スローガンは「なかま～みんなで幸せのバトンをつなぎ幸せの「わ」をひろげる～」と設定しました。これは昨年末のリーダー研修会で二中の課題について出し合い、どんな二中にしていきたいかという理想像を語り合い、文章化したものです。文章だけでは伝わりにくいので、生徒会役員によって制作したイメージ動画がありますので、ぜひご覧ください。

（動画鑑賞）

いかがだったでしょうか。1人の些細な行動から幸せが生まれ、その幸せがバトンのように、次から次への人へ伝わっていく。そして、全員が幸せになれるということを伝えたく、この動画を作成しました。このように、幸せが「わ」になっていくことで平和な世界ができると信じています。これからもなかまを広げ、そのなかま全員が幸せになれるように、幸せの瞬間や人とのつながりを大切にしていきたいと思います。

- （砥綿SPPリーダー） SPPができた経緯について説明します。

SPP（Smile・Peace・Project）の活動は、もともと生徒会執行部で行われていましたが、執行部の活動の量が多く、1つ1つの活動に力を入れることが難しくなったという現状がありました。そこで、生徒会の役職を増やし、活動を分担して充実させていこうと考え、SPPが発足されました。

次に、SPPが行っている活動を紹介します。SPPは二中が大切にしている人権・平和・共生の3本柱に沿った活動をしています。

具体的な活動として、4月には、人権の花であるヒマワリを、PTA、地域の方々と協力して校舎に植えました。ヒマワリはとてもきれいに咲き、人権の尊重を訴えることができました。

8月6日に行った平和集会は、今年で10年目を迎えました。本年度は広島・長崎・福島・水俣で共通する差別を取り上げた劇を実行委員124名で作り上げました。全校生徒で平和への思いを高め、地域へも平和への思いを発信することができたと思います。また、平和活動として、核兵器廃絶署名にも力を入れています。この核兵器廃絶署名は、世界から核兵器がなくなるのを訴え、平和への思いを学校外でも発信しています。

最近の活動としては、朝倉の豪雨災害による募金活動を行いました。活動は1週間という短い間でしたが、災害で困っている人の力になりたいという思いから、全校生徒が一体

となって活動を行うことができました。その結果、8万7505円もの募金が集まり、二
中生の思いを被災地に届けることができました。

○（三角副会長） 次に、二日市中学校の主な行事について紹介します。二日市中学校の行
事は、生徒が中心となって企画し、二中生全員が参加してつくり上げることを大切にしてい
ます。

まず、5月に体育会が行われます。今年の体育会では、「魂心～互いに本気をぶつけ合
い、全員が「なかま」と魂でつながる体育会～」というスローガンをもとに、実行委員や
ブロックリーダーを中心として、生徒全員でつくり上げていきました。

また、今年は生徒会スローガンが「なかま」ということで、学年の友達やPTAの方々、
地域の方々と大きな円をつくり、フォークダンスを行いました。このフォークダンスを通
して、二日市中学校から地域へと、幸せの「わ」を広げることができました。

そして、8月6日には平和集会が行われます。先ほどの紹介のように、実行委員が役割
を持ち、練習や準備をし、1人1人が平和とは何か考えていきます。

10月には文化発表会が行われます。9月前半から各クラスのパートリーダーを中心に
練習が行われ、本番では、文化会館で美しい合唱を披露します。

このように、全力で行事に取り組む二中生の姿にはとても感動するものがあり、みんな
でやり遂げていく中で、達成感や成長を感じることができるような二中らしさがたくさん
あります。ぜひ、二日市中学校の各行事へ足をお運びください。

○（山本生徒会長） 最後に、7月に発足しました筑紫野市内5中学校生徒会連合体につい
て御報告させていただきます。

市長様には、先日、御報告させていただきましたが、この会は、筑紫野市内の中学校生
徒会の交流の場を設定することで、人権や平和についてともに考え、具体的な行動をより
効果的に起こすことを目的として発足しました。

先日、第2回交流会を行い、会則の審議や具体的な活動について話し合いました。今後
は1つの中学校では実現できなかったり、微力とすることも、筑紫野市内中学生
3000人の仲間と力を合わせて実現していきます。また、この連合体を発展させ、日常
的に情報を交換したり、共通の目的のために協力していける組織にしていきたいとも考え
ています。

この写真は、先日9月16日土曜日に二日市中学校で行われた第2回交流会の様子です。
メインとなる話し合い、活動では、あえて会議形式ではなく、フリートークという形で行

い、自由にさまざまな人と意見を交換することができました。

まだまだ、それぞれの中学校内で連合体の存在が浸透していなかったり、日常的に連絡をとる方法が見つかっていなかったり、交流会を開催する日時や場所を確保することが難しかったりと、解決しなければならない課題が残っていることも事実です。しかし、この連合体は、筑紫野市市内の中学生だけではなく、地域の方々、筑紫野市民の皆様にもプラスになると信じているので、みんなと力を合わせて頑張っていきます。

私たちの任期は残りわずかですが、できる限りのことを行い、次の世代にこの連合体を引き継いでいこうと思います。ぜひ、応援のほどよろしく願いいたします。

これで、二日市中学校生徒会活動報告を終わります。御清聴ありがとうございました。

- （事務局） 活動報告ありがとうございました。皆さんが人権・平和・共生の3つの柱のもと、仲間を大切にしながら、全力で年間を通しての生徒会活動に取り組んでいる様子がよくわかりました。

ここからは、少しずつ皆さんからお話を伺っていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。皆さんが生徒会活動にかかわってきて、自分自身、成長したなど思えることがありましたら教えてください。お願いします。

部長会代表の尾座本さん、部長会の活動も少し教えてもらってもよろしいですか。

- （尾座本部長会代表） 部長会は、各部活の部長の代表という役職がここについて、二中の部活動の悪いところがあったら、そこを代表が見つけて各部活の部長に伝えていくことや、各部活ごとのよさを共有し合ったり、悪いところがあったりしたらほかの部活にも教えてあげるとか、部活同士で修正し合えるような組織というか、そこが部長会です。

僕は、2年生のころは生徒会をやってなかったのですが、3年生になって部長会代表になってからは、自分が見る範囲は、クラスとか自分の友達の間だけじゃなくて、生徒会に入ったので学校全体を見るようになって、自分が生徒会という自覚もあるから、日ごろの行動とかを、やっぱりみんなのお手本にならないといけないので、自覚して、2年生のころより充実したというか、毎日何か考えながら過ごすことが多くなりました。

- （事務局） ありがとうございました。ほかに、生徒会活動をやってよかったなど、自分は成長したなどということがありましたら教えてください。

吉田さん、吉田さんも図書委員会の活動を少し教えてください。

- （吉田図書委員長） 図書委員会は、メインは、二中では毎日、朝読書という活動が行われているのですが、そのときのみんなへの呼びかけだったり、昼休みの図書室の運営の

お手伝いだったり、そういう活動を主に行っています。

私が生徒会に入って成長できたと思うのは、2年生のときは、友達とか、そういう限られた人の中でしか、何か授業のときとかわかればいいかなとか、そういうふうに自分の世界が狭かったのですが、さっき尾座本くんが言ったみたいに、自分のいる範囲が広がったとか、後は、自分が委員長だから、自分の1つ1つの行動に責任感とか、そういうのがより明確になって、後は、学校のためにどういうことができるだろうというのを自主的に考えるきっかけとかを多く得られたので、そういうところが成長できたかなと思います。

○（事務局） ありがとうございます。二中では、朝読書の時間があるのですね。どれくらいの時間ですか。

○（吉田図書委員長） 10分間です。

○（事務局） それは、好きな本を読んでいいのですか。

○（吉田図書委員長） はい。

○（事務局） ほかに皆さん、生徒会活動にかかわってきて。

じゃあ、小川さん、お願いします。小川さんも生活委員会の活動をお願いします。

○（小川生活委員長） まず、生活委員は、毎月、生活点検というものがあって、生活点検というのは、例えば、髪が耳にかかっていたり、服装とかのベルトとか靴下をちゃんと上げているかななどの身だしなみをチェックするもので、それを毎月行っています。

また、挨拶運動や挨拶週間というものがあって、昇降口に1週間立って、朝、委員が積極的に登校してくる人に挨拶を行っているのが挨拶運動で、挨拶週間は、挨拶運動で委員から発した挨拶が少しでも学校内で広まるように、毎日、帰りの会とかで挨拶がちゃんとできたかとか人数とかをしっかりと聞いて、その反省点とかあったら、また次に生かして挨拶を広めようとしています。

生徒会を通して、まず自分の、やっぱり1、2年生のときは特に何もしてなかったもので、ちょっとしたことでもあんまり気をつけることとか、やっぱり生徒会になったら見本となるような、学校生活でも、日常生活でも、みんなに何か言われないように、いろいろ気をつけるようになりました。

○（事務局） 挨拶運動をされて、生徒さん皆さん返してくれますか。

○（小川生活委員長） 月曜日から金曜日までなのですが、やっぱり、月曜日やるときより金曜日とか、最後のほうの日にちのほうで挨拶を返してくれることが多いです。

○（事務局） 私たちが打ち合わせに行ったときも、わりと皆さん、二中の生徒さん、廊下

でもほとんどが挨拶をしていただきましたので、生活委員会の取り組みがここでも浸透しているのじゃないかなと、私も聞いていて思いました。ありがとうございました。

ちょっと質問を変えてみます。S P Pの取り組みということで、8月6日、平和集会を行っていただけますけれども、平和集会にかかわって、感想がありましたら教えてもらいたいと思います。砥綿さん、お願いします。

○（砥綿S P Pリーダー） 平和集会をやったことは、まだまだ知らない、例えば、今年のテーマであったら福島とか、今でもそういう差別とか続いているという今の現状を、現地調査にも行ってたくさん学べたし、私、実行委員長だったんです。それで、実行委員を募集して、みんな実行委員も、平和に対してたくさん学んでくれたり、夏休みにも朝早くから集まってきて、みんなで1つの劇をつくり上げて、とても感動するものができてよかったなと思います。

○（事務局） 124名の実行委員さんをまとめるのに難しかったなとかありますか。苦労したかなと。

○（砥綿S P Pリーダー） やっぱり人数が多かったので、指示が回らないところもあったけど、各役職のリーダーがいたので、そのリーダーがちゃんと指示を出してくれたので、あんまり困ることはありませんでした。

○（事務局） 水俣の勉強も行ったのですか。

○（砥綿S P Pリーダー） 3年生は、修学旅行で水俣学習があったので、水俣のことはわかっていて、でも、1・2年生は、水俣のこととかは社会の授業でちょっと習っただけで、多分詳しくは知らなかったと思うので、平和集会を通して知ってくれたと思います。

○（事務局） ありがとうございます。続けて砥綿さん、実行委員長をされたので、砥綿さんにとって、平和な社会ってどんな社会かなと思いますか。

○（砥綿S P Pリーダー） やっぱり、戦争がないだけが平和じゃないことと、やっぱり同じ人間同士というか、差別とか、みんなが平等である世界が平和だと思うし、1人1人の居場所があることも平和につながるんじゃないかなと思います。

○（事務局） ありがとうございました。

今、1人1人の居場所があることも平和につながるんじゃないかなって砥綿さんが言ってくれましたけど、今、中学校の中でも、いじめや不登校という問題がやっぱりあると思いますけれども、二中学生会としていじめや不登校について、なくしていくためにどうしたらいいかとか、取り組んでいることがあったら教えてもらいたいと思います。

大隈さん、お願いします。

○（大隈書記） 私のクラスには思いやり係というのがあって、例えば、学校に来られていない人とか休んでいる人に、毎日、帰りの会の際に、思いやり係の人が「だれだれさんに連絡できる人」とか、「だれだれさんに明日の時間割を教えてくれる人」とか、学校に来られていない人にも、毎日、その人のことを考えて、クラスみんなで、その人が学校に来られるようにできるような思いやり係というのがあります。

また、教室で御飯が食べられなかったりしている人が、教室に入って食べられなかったりするときは、クラスの少ない人数だけど、違う教室に「じゃあ私が行く」とか、仲がいい人だけでも行ったりして、給食を食べられるような取り組みなどを行っています。

○（事務局） ありがとうございます。海老海さんのクラスでも何か取り組みをしていますか。よかったら教えてください。

○（海老海副会長） 私のクラスでも不登校の人がいて、なかなか、クラスの雰囲気でもあろうと思うのですが、雰囲気とかでなかなか入れない人とかいたりして、何だかちょっと、壁のあるところも今あるのですが、そこも自分たちとかで、一緒に雰囲気づくりとかで、1回でもいいから一緒に全員がそろって授業を受けたりとか、もうすぐ合唱コンクールもあるので、私たちの合唱コンクールのクラスのテーマが「全員で合唱する」という、それがクラスの目標としているので、まずは、ちょっと今、壁があるというか、なかなか入りにくい雰囲気とかがあるので、その雰囲気づくりから始めて、全員で合唱できたらいいなと思います。

○（事務局） 10月27日でしたね。頑張ってください。ありがとうございます。

山本会長にお尋ねしたいと思いますが、5中連合体をつくろうと思ったきっかけと、今まで2回の交流の成果を、先ほど教えていただきましたけども、もう少し詳しく教えてください。

○（山本生徒会長） 5中連合体をつくる発足校になったのがこの二日市中学校なのですが、人権・平和・共生に関する活動を学校内でしてきて、それを、校内だけじゃなく、地域にも発信していきたいという思いが1つと、せっかく同じ筑紫野市に住んでいる違う中学校と交流をする機会が年に1回の市民フォーラムしかなくて、そういう機会がもっとたくさんあって、お互いのいいところを共有しながら、ともに活動をしていく組織があれば、1校の力じゃ小さな力にしかないかもしれないけど、5校となれば大きな力になって、社会をよくできる大きな力を持つことができるんじゃないかなと思って発足をしました。

2回交流会があつて、1回目は顔合わせの発足会ということで、1中学、大体5、6人ずつが集まったのですが、文章だけの連絡だったりとかしたので、なかなか趣旨が伝わってなかったりしたのですが、フリートークとか話とかを通じて、ちゃんと顔を合わせたことで、どの学校も前向きにとらえてくれたのじゃないかなと思いました。

フリートークは私、正直どうなるかなと思ったのですが、同じ年の初めて会った人たちがほとんどだったので、うちの学校ではこういうことをしているよとか、こういうことを一緒にできたらいいのにとか、いろんな案とか気づきが生まれて、そういったラフな話し合いの中で、いろんなことがこれからも生まれていくのではないかなと、すごいわくわくした回でした。これが1回目です。

それで、先日行われた第2回では、会則の審議と、これから11月で、代交代で2年生のほうに引き継ぐのですが、どうしていくかということ話し合いました。

同じようにフリートークで、こういうことをしていきたいとか話し合ったのですが、前回よりも各校いろんな案を持ってきていて、二中があと1年、運営が安定するまではしていくのですが、今後の5中連合体の活動に期待が持てるような会になったところです。

- （事務局） 当日は2年生も来ていましたか。二中也2年生が参加したのですか。
- （山本生徒会長） 二中也2年生はいて、ある学校は、もう2年生が先に引き継いでいました。
- （事務局） 次の3回目は、もう3年生は参加できないのでは。
- （山本生徒会長） 二中は参加する予定ですが、2年生がほとんどになると思います。
- （事務局） 引き継いでいく代なのですね。わかりました。ぜひ始めたばかりだからですね。少しずつ礎をつくっていただきたいと思います。

最後に、今いろいろ、いろんなたくさん、とてもいいお話を聞かせていただきましたけれども、二中の強みって、自分が二中に通っていてよかったなあと思われたこと、三角さん、最後に一言お願いします。

- （三角副会長） 先ほど、生徒会活動報告でも紹介させていただいたのですが、まず、この二日市中学校の体育会であったり、文化発表会であったり、平和集会であったり、先生だけじゃなくて、二中生全員が関心を持って、二中生自身でつくり上げていくということに二日市中学校の大きな強みがあると思います。

それで、1つ1つの行事の中で、実行委員だったりリーダーだったり、そういう役職につく人はいるのですが、そういう人たちはやっぱり、みんなが参加するということを大

切にしている、その中で、この学校の大事なところである人権だったり、共生だったり、そういった面を育てていっていると思います。行事が終わった後でも日常生活でも、その行事で学んだことを生かして、この学校は温かい雰囲気にも包まれていると思います。

○（事務局） 二中に通えてよかったなど。

○（三角副会長） 思います。

○（事務局） ありがとうございました。たくさん皆さん、8人の方のいろいろな意見を聞かせていただいて、ありがとうございました。市長のほうから何か、御質問とか。

○（藤田市長） そうですね。皆さんの意見を拝聴して、少し進めていって、時間がとれば、また。

○（事務局） 教育長は何か。

○（上野教育長） そうですね。せっかく部長会、それから生活委員長も来てあるので。

1つ、部長会のお話を聞かせてもらったけど、それぞれの部には部活動担当の顧問の先生がおられますね。顧問の先生全体と部長会とで合同で話し合うようなことはあるのですか。

○（尾座本部長会代表） 全体ではないです。

○（上野教育長） ない。例えば、いろいろ戸締まりの件とか、あるいはマナーの件とか、いろいろあるじゃないですか。顧問の先生、それぞれ、例えばバレー部で3人おられると1人でいいんですよ。部長会と顧問の先生代表、全部顧問の。そういうふうなところで、今なら二中の先生と部長会の代表とで、さらに二中の部活動について、こういうところを直していこうとか、サッカー部でやれて何でバレー部はできないのとか、ひょっとするとあるかもしれない。そういうふうなところをうまく出しながら、やっぱりやっていくというのは今がチャンスかなというのがありました。これは日常の生活で、部活動で頑張っている人がさらに頑張れるように、やっぱりそういう仕組みづくりというのがあったらいいなというのが1つ。

それから、もう1つは、今、スマホ社会ですよ。いろいろと家庭で、やっぱりそうやって、そういうものを使っている人がたくさんいるかもしれない。実態はわかりません。各学校でいろいろとルールづくりというのを、今、いろんなところでPTAも取り上げているけど、二中の中で、例えば10時以降は絶対やめようねという形で、クラスで、学年で、学校でというのができれば、それはもう保護者の方たちが大変助かる。親から注意されなくても、自分たちでこうやる。自分たちで、僕たちがつくったからこれをやるよということで、自らそういうことで、ぱっと勉強に切りかえるとか、何かそういうふうなこと

が、今だったら、君たちには絶対できると思うのだけど、そのあたり、今、2つのことを今言ってみただけでも、何か気づいたこととか、こんなことがあったらいいなというのがあったら、ちょっと教えてほしいと思います。部活のほうは。

○（尾座本部長会代表） 部活のほうは、今まで問題があったのですが、そのときも、僕たち、僕ともう1人いるのですが、部長会代表と部長とだけの間での話し合いだったから、部活を見てくださる顧問の先生との情報の共有とかも、やっぱりすべきだったと思うので、残りの期間でやりたいと思います。

○（上野教育長） そうですか、ありがとうございます。スマホのほうは。小川くん、あるいは三役でもいいですよ。

○（小川生活委員長） すごくいい提案だったと思うので、今は僕だけでは決められないので、いろいろ話し合っただけで決めたと思います。

○（山本生徒会長） 私たちの学校でも問題があったりしていて、学校が終わって友達と連絡をとったりとか、仲間とのつながりをつくる意味では、使い方によってはすごいメリットのあるものだなんて感じていて、私自身もしているのですが、ただ、それで相手の勉強時間をとっちゃったりとか、嫌な思いをさせちゃうようなリスクもある。そういう2つの面を理解して、私の個人的な考えになってしまうのですが、ルールとかをつくるよりは、相手のことを考えられるようになる、そういう精神とかを身につけるところで、二中学生が理解していたら、問題とかも減って、利用マナーもよくなっていくんじゃないかなと思います。本当に私の考えなので、みんなで話し合いたいと思います。

○（上野教育長） 学校全体で取り組めることが、より一体化した視点でものすごく大事なことだと思うし、ある程度決まりごとがあると守りやすいという、そういったことが数的には見えるよね。そういったことも含めて少し検討してもらって、また、次期生徒会のほうにもゆだねるといふか、そういったことがあったら、さらに優秀な生徒会は、いろんな意味で、ほかの4中学校のモデルになるんじゃないかなと思ったところでした。以上です。

○（事務局） 桑野総務部長も出席していますが、二中の後輩になられると思いますが、いかがですか。

○（桑野総務部長） まず皆さんの生徒会の姿勢ですね。市長が私たち職員にいつも言っているというか、言葉では言いあわせない。礼節を重んじるということ、言葉では言われないけど、いつも指導していただいている。礼節というのは、相手を尊敬して自分は謙遜して、行いを常に正しくするというところが、場合に応じて、自分の行動ができるよう

わかまえることということをお私たち職員は指導していただいていると思っています。それが、皆さんができて、もう既に中学生で行いとしてできているところがすばらしいというふうに感じました。以上です。

○（事務局） ありがとうございます。

これまで行ってきた移動市長室でも感じたのですけれども、筑紫野市にはいろんな活動をされてある団体があって、例えば、前は視覚障害をお持ちの方に朗読のボランティアをされてあるグループと移動市長室を行ったのですけれども、もう皆さん、いきいきと活動されているのですね。自分の活動に誇りを持ってされてありました。

その前は、皆さんの校区の松ヶ浦区の町内会の皆さんと移動市長室をしたのですけれども、小さい小規模町内会というところながら、絆を大切にしておいて、いろんなさまざまな活動に取り組んでいる様子を伺うことができました。

なので、筑紫野市には、そういった魅力的であったかい人たちが、本当に皆さんの地域にはたくさんいると思いますので、今日、本当に幸せのバトンの取り組みですか、小さな些細な行動から、どんどん幸せにつながっていくという、そういう取り組みを、きっとそういう人たち、たくさん魅力的な人がいっぱいおられますので、そういった人たちを通して、筑紫野市内に、どんどん二中の取り組みが広がっていくんじゃないかなということで、私も今日は動画を見ながら感じたところです。今日はありがとうございます。いろいろお話を聞かせていただいて。私たちも、そんな皆さんを含めて、本当に幸せの輪が広がるような行政というか、そういうまちづくりを進めていきたいというふうに、改めて思いました。ありがとうございます。

それでは、次に移りますので、筑紫野市の現在の市政運営について、末吉から御説明をさせていただきます。御清聴お願いします。その後にも、市政について御質問を受けたいと思います。

○（秘書広報課） 今、二中の皆さんからの発表の時間が終わって、ここからが第2部です。筑紫野市からの話を聞いていただいて、また、意見交流をしましょうということでの時間になりますので、よろしくお願いします。

最初に幾つか画像を出しています。見たことがあるもの、ないものあるかと思うのですが、「これ知っているよ」というものがあつたら、皆さん、挙手をお願いできたらと思いますが。会長がさつと上がりましたね。山本会長どれにしますか。

○（山本生徒会長） 左上のマーク。

○（秘書広報課） ありがとうございます。これは市章ですね。市のマークです。筑紫野市の「ち」を図案化していて、上の突き出た部分が「躍進」、そして、外側の円が「融和と豊かさ」、そういったものを表現している筑紫野市のマークです。私たちの名刺だったり名札だつたりに入っているの、皆さんも見たことがあったかもしれません。

ほか、これは知っているよというのは。三角くんお願いします。

○（三角副会長） 一番右の女の子。

○（秘書広報課） この女の子はマスコットキャラクターの「つくしちゃん」ですね。二日市温泉ゆかりの伝説上の人物「瑠璃子姫」というのをモデルにしまして、市政20周年を記念して、平成4年に作成しました。なので、もう20歳を超えています。これから後もいっぱいつくしちゃんが出てきますので、ちょっとその様子を楽しみにしてください。

ほか、これはわかるよというのは。

○（海老海副会長） あの赤いマーク。

○（秘書広報課） これも見ただことありますか。このシンボルマークはツバキと温泉をモチーフにしていて、温かい心と活力を表現しているマークなのですが、カミーリヤバスのバス停のマークにもなっているので、目にした人もいるんじゃないかなと思います。

下に2つ、お花が載っていますが、このお花、何の花かわかりますか。山本さん。

○（山本生徒会長） 右の花は椿。

○（秘書広報課） 正解です。椿は「市の木」という形で制定されております。古事記や万葉集の歌によく歌われているこの椿を、筑紫野市のシンボルとして市の木に選定しているところですよ。

最後に、赤い花、見たことはあるけど名前は出てこないみたいな感じでしょうか。これはサルビアという花です。サルビアを「市の花」という形で制定しています。強い輝きという意味を持っているので、当時、キャッチフレーズが「緑と太陽のまち」というものがございました。これにふさわしい花として、市の花に制定しているものです。

もうちょっと続けます。市内のいろんな場所の写真が載っていますが、見たことあるよというところ、行ったことあるよというところ、ありますか。今度は尾座本くん。

○（尾座本部長会代表） その池のところ。

○（秘書広報課） これは天拝公園ですね。水上ステージのある天拝公園になっています。

ほかに誰か。大隈さん。

○（大隈書記） 湯町の温泉。

- （秘書広報課） 湯町の温泉ですね。ほかには。砥綿さん。
- （砥綿S P Pリーダー） 一番右で、御前湯。
- （秘書広報課） 御前湯、そうですね。あと幾つか残っています。もうそんな感じかな。
はい、じゃあ答え合わせしますね。

一番上から、これが九州最古の寺として知られる武蔵寺というお寺です。その隣が、その境内に樹齢1350年を超えるとされる「長者の藤」という藤の花です。これが市の天然記念物に指定されている花になります。それで水上ステージの天拝公園があって、その隣が観月会の様子ですね。天拝山から天拝公園にかけてというところで、中秋の名月に開催されます。今年は10月6日に予定されていまして、お月様と花火を最後に楽しむというような行事です。そして、出していただきました二日市温泉が出てきて、その中の御前湯という施設でした。

どれも学校の校区内というような場所になりますので、皆さんが目にしたたり、行ったりしたということがあるような場所もあったのではないかなと思います。

市役所と聞いて皆さん、何をイメージされるでしょうか。具体的な仕事内容や皆さんとのかかわり、あんまりピンと来ないかもしれません。市役所は、筑紫野市の皆さんが安全で安心して快適に生活がしていけるように、市民の皆さんが納めるお金、いわゆる税金をもとに、いろいろ仕事をしているところです。

この写真は現在、市庁舎の建設工事を進めています。完成イメージ図と工事の様子の写真です。平成30年11月の完成に向けて、今、工事を行っているところです。

そして、その市役所の中で藤田陽三市長、筑紫野市の代表で、市の仕事を行う最高責任者です。市民の皆さんの声を聞いて、筑紫野市をどんなまちにしていくかを考え、いろいろな計画や制度をつくってあります。4年に一度の選挙で、市民の皆さんの中から選ばれます。

そんな藤田市長が二日市中学校を訪問する機会も何度かありましたので、少しそれを紹介させていただきます。これは今年の入学式の様子ですね。挨拶をされている様子です。これが去年の体育会、こちらにも訪問させていただき、皆さんのことを応援しました。これは少しさかのぼり、3年前になりますが、いろいろな工事を行うときに、このように現場に行って、実際に確認を行いながら事業を進めているところです。

今、市長のお仕事を説明しましたがけれども、ほかにも市役所ではたくさんの職員が、仕事の種類によって、さまざまな分担をしながら仕事をしています。少し紹介をさせていた

できます。

まずは議会事務局、4年に1度の選挙で選ばれた市民の代表である市議会議員の方たちがいらっしゃいます。この方々が、市のお金の使い方や市の決まりごと、条例を話し合っているのです、職員がそのサポートをする仕事をしています。

そして企画政策部、筑紫野市の将来を考えて、計画をつくったり職員の採用試験を行ったりしています。ちなみに、今日来ている秘書広報課もこの部です。

そして総務部、税金の使い方をよく考えて決めたり、地域の人たちと一緒にまちづくりをしたり、交通安全の取り組みなどを行っています。

そして市民生活部、引っ越しをしたときや赤ちゃんが生まれたとき、病院にかかるときの保険証や医療費、税金などの手続きを行っている部署になります。

健康福祉部、子どもからお年寄り、体の不自由な人や生活に困っている人など、皆さんが健康で安心して生活できるためのお手伝いをするような部署になります。

建設部、道路や公園などを新しくつくったり、壊れたものを直したりしています。

環境経済部、家庭から出るごみの処理や農業、観光の取り組み、また、毎日の生活に必要な安全・安心の水の提供や下水道の維持管理などを行っています。

最後に教育部、小中学校の整備をしたり、学校での安全対策を行ったり、また、学校給食、文化・スポーツなどの取り組みを行っています。

このように、市役所にはいろいろな仕事があるところです。

先ほど、市役所は市民の皆さんの納める税金をもとに、いろいろな仕事をしていると言いました。次は、お金が1年間にどれくらい集まるかについてのお話です。

こちらは平成29年度一般会計の歳入予算の内訳になります。市税の額が133億383万4000円ということで、全体の42.6%を占めています。市税には種類があって、前に主なものを書いています、市民税、固定資産税、軽自動車税、たばこ税、このようなものがあります。

オレンジ色の部分を自主財源と言い、市が自主的に調達できるお金になります。黄色の部分は依存財源と言い、国や県からのお金、それから大きな事業を行うとき、銀行からの借入金、いわゆる市債というものが含まれます。合わせて、歳入の合計が312億1400万円となっています。

続いて、お金の使い方についてです。こちらは歳出予算を使う目的によって分類したものです。一番大きな割合を占めているのが民生費、子どもや高齢者、障害者などの福祉に

使われ、予算も42.5%を占めます。その額が132億6300万円となっています。

以下、総務費、土木費、衛生費、公債費、教育費、その他という形で、その他には、議会とか農業、商工業、消防などに使われる予算があります。このような目的によって、いろいろなお金が使われているところです。

最後に、筑紫野市がこれから進もうとする基本的な考え方ということで、総合計画というものを紹介します。

今年の4月、第五次筑紫野市総合計画をスタートしました。将来都市像を「自然と街との共生都市 ひかり輝くふるさと ちくしの」としています。この将来都市像を実現するための5つの政策として、藤田市長が就任以来の公約でもある、行財政改革、産業・雇用をつくる、生活をまもる、共助社会づくり、未来をつくるを柱とし、さまざまな事業に取り組んでいます。それらがちょっとイメージできるような写真を載せてみました。

さらに今後、特に重要になる取り組みとして、これもまた5つ、重点施策として設定しています。市庁舎の建設、高尾川・鷺田川の治水対策など、市民の皆さんの安全・安心についての事業であったり、地域コミュニティづくり、このようなものを積極的に進めていくということで今、取り組みを進めております。

以上、筑紫野市についての紹介をさせていただきました。この後、意見交換を進めていきますので、皆さんの御協力をよろしくお願いいたします。御清聴ありがとうございました。

○（事務局） 御清聴ありがとうございました。筑紫野市について、少しでも皆さんに市政について関心を持ってもらいたいと思って、今回、初めてつくってみました。

それでは、今から先は市政について、何か質問なり意見なり、今日は市長、そして教育長、総務部長も出席しておりますので、何でも結構ですので、どうぞ、いつもの挙手をお願いしたいと思います。

○（山本生徒会長） 先ほどのスライドで出ていたところで、どれぐらいのお金が集まるのかといった点で、筑紫野市の予算が312億円ということで、その額というのは十分な額なのか、多いのか少ないのか。

あと、人が筑紫野市にたくさん住んでいれば、その分、税金とかも入ってくると思うのですが、負担をする分も多くなるじゃないですか。だから、どっちのほうがいいのかなということをおもいました。お願いします。

○（藤田市長） 数値的には総務部長さんが来ていますので、詳細には総務部長が話しますが、要するに、入ると出るのバランスが、やっぱりとれないといけません。出るばかり

が出たら、赤字になってしまいます。入るを多くして出るを減らすと、市民生活が豊かになりません。どちらをとるかというそのバランスをとりながら、312億1400万円という予算を、1年のうちで、3月の議会、6月の議会、9月の議会、12月の議会と4回あるんです。その3月議会に当初予算をつくったのが312億1400万円です。

今、5本の柱というのが第五次総合計画によってありましたね。この5本の柱の中に行財政改革、それから、産業・雇用をつくる、生活をまもる、共助社会づくり、未来をつくる。行財政改革というのがそのバランスをとるところですね。そして、産業・雇用をつくるというのは、出るのほうです。そして、生活をまもるというのも出るのほうですね。

だから、産業・雇用をつくるというのは、企業を誘致して働く、雇用をつくるということは、ここから福岡に通わなくても、筑紫野市に住んでいて、できれば筑紫野市で働くところがあったほうが「まち・ひと・しごと創生」ということにつながって豊かになっていきます。

生活をまもるというのは、いろんな児童生徒の健康づくりや安全・安心。皆さん知っていますか。平成23年3月11日の東日本大震災、皆さんが今度、義援金を集めてくれた九州豪雨災害、義援金を送ってくれました。そういうふうなものの災害をなくさなくてはいけないのにかかる費用というのもあるわけですね。

皆さん方、この二日市中学校もそうです。まだ新開校長先生はまだ見えてなかったのですが、皆さん方は知らないかもしれませんが、前々の校長先生のときに、この二日市中学校を建てかえたのですね。そういうふうな安全・安心です。そして、筑紫野市は小中学校16校あります。それに地震対策の予算、これ41億5000万円ぐらいかけてやっているのですね。安全な建物になっています。

それから、皆さん方はお昼に昼食を食べているでしょう。あの昼食、おいしい昼食、何食ぐらいできていると思いますか。9600食つくっているのですよ、毎日。皆さん方が学校に行っている間、毎日つくっている。でもこれ、おいしい給食が欲しいでしょう。だから、給食共同調理場というのを改修しました。これ、どのくらいかかったと思います。5億5000万円ぐらいかかっている。

それとか、安全・安心を守るために、筑紫野太宰府消防本部というのをつくって、これ10億円かかりました。

それから皆さん方、夏場に勉強するのに涼しいでしょう。クーラーが入っているでしょう。あれ空調は、平成26年に316教室全部一斉につけたんです。夏は学校に来たほう

が涼しいでしょう。

そういう環境整備をやっているのが、平成29年度は312億1400万円でやろうと、こういう予算です。

だから、今、会長が言われたように、入ると出るのバランスをとりながらやっている。そのチェックをするのは市議会です。市議会に説得力のある説明をやりながら、議決をしてもらおう。議決をしてもらったのを執行するのは市長です。「はい、これは出してよろしい」「これは出してよろしい」といって決裁を出す。その決裁を出していただきたいというのは、471名の職員がいろいろ考えて、「市長、これはこの時期に出していただきたい」という書類を上げてくる。そういう仕組みになっています。

そうですね。細かいところの話は総務部長に一任します。

○（桑野総務部長） 僕も市長が言われたので、給食を。今、よその自治体でいろんな給食が問題になっているけども、一番安全面を考えられて決断された、調理場を改修されたというのは藤田市長の時代です。

今、給食費を払っていると思うけど、純粹にもう食材費、材料費しか支払いを求めてない。後は全部市が、人件費とかガス代とかさまざま、年間大体2億1000万円ぐらいかけて調理を行っているというところですよ。

後、自分たちが一番考えるのは、会長さんがおっしゃってある中でも、入るお金というのは限られている。求められているサービスというのはものすごい数がある。その中で、何を自分たちが一番考えるかということ、事務の効率化といって、少ないお金で、少しでも効率を上げて多くのサービスを提供するというところを考えています。

例えば、さまざまところで取り組んでいるのだけど、筑紫野市、職員が471名います。平成22年当時で、全国の市の数で言ったら786ある中で、人口1000人当たりの職員数が一番少ないランキングというのは、786市の中の筑紫野市は6番目。少ない職員で皆さんたちの行政サービスを行っている。決して少ないから人手が足りないということじゃなくて、職員は十分頑張っていて、それに足りていると思っています。

それは一例ですけども、少ないお金でより多くのサービスを提供するというところを考えて業務を行っております。以上です。

○（藤田市長） じゃあ、どうぞ。続けて、質問をしてください。

○（三角副会長） 5つの政策の中に共助社会づくりというものがあったと思うのですが、共助って聞いたときに、やっぱり、震災であったりとか豪雨災害であったりとか、そうい

う災害のときに、近所同士で助け合うというイメージをするのですが、共助というのは、それ以外にも何か意味があったりするのかなと思いました。

○（藤田市長）　そうですね、副会長にお答えしますが、共助の源は、今のように都市型じゃない村、農山村、その村的なコミュニティですよ。

向こう3軒両隣、誰でもね、親兄弟、友達、友人以上のつき合いをしていた。例えば、食べるお米がない。調味料がない。「ちょっと三角さん貸してくれませんか」「ああ、藤田さんが来たならいいですよ」「味噌がないですよ。山本さん貸してもらえませんか」と言って、そういうふうな交流ができていた。それが共助なんです。お互いを助け合う。

阪神淡路大震災があったときに、自助・共助。要するに、隣同士で「あっ、あの人の姿が見えない。どっかに埋もれとるんじゃないか」と言って、探して助け出したのが8割。それから、消防とか警察とか、公的な人たちが見つけたのが2割。だからやはり、自助であり共助というのが、災害に対してもどれだけ大切なものかということで今、自助・共助・公助を中心としたコミュニティをつくりましょう。要するに、昔のような向こう3軒両隣、みんなが顔が見えるような生活環境、自治体をつくりましょう。

今、筑紫野市は7館、コミュニティを持っています。つくっています。それで10万3000人余の市民が、その7館の中に、82行政区がありますと。その中で生活をする。その営みの中に自助・共助・公助をつくっていかうとしている。それが現状ですね。

○（事務局）　ありがとうございました。ほかにありますか。

○（砥綿SPPリーダー）　市長さんになろうと思ったきっかけというのは何ですか。

○（藤田市長）　私ごとになりますが、皆さんは3年生で、来年3月に卒業します。何期生ですか。71期生、そうですね。私はこの卒業生の10期生です。皆さん方よりちょっと2、3期早いのですかね。

私は中学校を卒業して、高校に行きたかったのですが、ちょっと家庭の事情で高校に行けませんでした。そういう環境の中で育ちました。

それで家庭が、大工さんじゃなくて左官屋さんで、それで家事従事をして左官屋さんになりましたね。それで修行をして、左官屋さんでもやっぱりね、何とか人に負けないような技術屋になろうと思ったんです。でも、なかなか難しい。

それであるとき、県大会に出させていただきました。福岡県内の大会。それでたまたま優勝しましてね。そして九州合宿に行って、そして東京で全国大会に出たのですよ。残念ながら銅賞でした。3位ですね。悔しくてたまらないので、また出ました。次が準優勝。

あと1歩と思って、3回目出ました。それで金賞をとって金メダルをとったのですが、そういう経験からして、やはり、世の中は努力をすれば、何とか自分の思いが果たせる。そういう思いがして、じゃあ私は中学校しか出てないので、高校を何とか出たいということで、その後、修猷館に通って高校を卒業しました。

卒業して、まだ子どもが小さかったので、筑紫野中学校のPTA会長をしました。そのときの先生がこの教育長さんです。いろんな人とつき合いをしていくうちに「あなたは市議会に出なさい」という話があって、筑紫野市議会を2期務めました。そのうちに「あなたは県議会に出なさい」と言われて、それで県議会に出ました。県議会で5期務める間に、福岡県議会57代の議長になって、そして、県議会を20年務めたんです。私の身の上話をするようですが、「あなたは筑紫野市に帰ってきなさい」ということになって、筑紫野市に帰ってきて7年になります。そういう人生を歩んできました。

だから、そうですね、帰ってきたのはなぜかと言ったら、もうバッジをはめて30年になっているのです。その間、みんながやっぱり選挙で押し上げてくれました。9回戦ったんです。おかげさまで全勝です。だから、その恩返しに市民を、筑紫野市をもっと住みよい、住み続けたいと思えるような筑紫野市にしたいということで帰ってきました。

しかし、なかなか難しい。なぜか。会長が言われたように、入ると出るのバランスをとりながら、まだ足りないのがいっぱいあるのです。やったことはさっき言いましたが、今、市庁舎を建てています。これ市庁舎は、昭和11年に建てた市庁舎ですから、81年経っている。これ、地震が来たらペしゃっとなる。これを何とかしなくちゃいけない。今みんな知恵を出し合って、やはり入ると出るのバランスをとりながら、市民に不自由をかけない程度に、いろいろ知恵を絞りながら、そして基金を積みながら、今、庁舎を建てているのです。

庁舎、幾らだと思ふ。これね、59億5620万円、59億5000万円の建物を今建てている。あれ、写真で見たら小さいようでありますけどね、1万4000平米。地上6階の建物です。これで、いろんな皆さん方の住みたい、住み続けたい筑紫野市にしよう。ここを拠点にして、ここが拠点。そして7つのコミュニティ、そして82の小地区公民館、それが1つの組織になって、市民の安全・安心を、住んでよかった、子どもを産み育てやすいまちづくりをしていこう、こういう計画のもとに今、進んでいます。

はい、私の生き様まで話してしまいました。こんなこと、滅多に話さないんですよ。いい質問してくれましたね。何期生卒業まで言ってしまったね。これ、新開校長にも話した

ことないんですよ。

- （事務局） 質問はよかったですか。皆様もし、これ終わってからも、まだ市長に聞きたいということがあれば、いつでもまた私のほうに連絡していただければ、いつでもお時間をとらせていただきます。お待ちしております。よろしかったですか。

学校からの御挨拶ということで、校長先生からよろしく申し上げます。

- （新開校長） 失礼します。学校を代表して一言お礼の言葉を述べさせていただきます。

藤田市長様、本当にお忙しい中、本校においでいただき感謝申し上げます。

子どもたちの素朴な質問に、本当に丁寧にご答えていただき、市長様のお人柄も伝わるような内容で、子どもたちにとっても、そして自分たちにとっても、本当に学びの場になりました。特に、生徒会活動におきましては、この移動市長室を機に、自分たちの活動を整理する場になったのではないかなと思っています。

改めて、本校の生徒会活動を整理してみますと、本当に人権・平和・共生というところで、本当に市の行政施策、人と人がつながっていくコミュニティというようなところと、本校の生徒会活動が結びついているんだなというふうに感じたところです。あわせて、今回の移動市長室を機に、本校の生徒会活動の、それと生徒会役員が本当に自信と誇りを改めて感じたのではないかなと思って、貴重な機会になったというふうに思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

- （事務局） 結びに、藤田市長が皆さんに御挨拶を申し上げます。

- （藤田市長） 今日、私が、この移動市長室が二中であるということを知り、行ってみよう。そして、ぜひ皆さんの意見を聞いてみようと思ったのは、山本会長さん、そして砥綿さん、そして松永さんがお見えになったときに、今やはり、いじめとか不登校とか、今ね、総合教育会議というのをやっているのですよ。昔は教育委員会だけでやっていた。それが教育行政の改革によって、市長も教育の中に入って、学校の環境整備だけでなく、教育指針の協議の中に入って教育を進めるようになった。

それで、総合教育会議の中であって、一番問題になっているのはいじめ、不登校、そして、やっぱりこんなに二中のように素晴らしい学校、学生活動というのがなかなか少ない。そのところに行って、この山本会長さんは生徒会の5中連合体、5中学校の、その連帯をつくって、要するに、いじめとか不登校というのは自分たちの問題です。生徒会の中で解決をしないと、先生とか保護者とかの問題じゃないと、こういうお話をされた。そしてさらに、5中学校の生徒会が、自分たちは卒業していくけれども、これを継承して行って

もらって、生徒会がもっとまとまりのある、連携がとれる、情報交換ができる、そういう会になったら、もっと中学生活が楽しくなるだろうということをおっしゃった。

だから、私は今日はぜひ行きたいと思ったんです。山本会長ありがとうございます。砥綿さんもありがとうございます。あなたたちの説得力、松永さんもそうだけど、説得力のある市役所を訪ねての気持ちは本当に胸を打つ、心を打つ言葉であるし、迫力がある。自分たちはやるんだって。

それで今日来てみたら、私の卒業のときに恩師が言っていたように「敬・愛・信」、二日市中学校は70周年を迎えました。その歴史ある伝統が敬・愛・信なんです。それが見事にここに脈々と敬・愛・信が息づいて、3本の柱になって人権・平和・共生という形で、生徒会がつくり上げているというところがすばらしい。

だから、中学校が二日市中学校と筑山中学校しかなかった時代、私は筑紫野中学校のPTA会長をしたときに、二日市中学校がお父さんだ、それから2番目が筑紫野中学校ですよ、分家して。3番目が天拝中学校、そしたら、そのときの会長が、筑山中学校はって。あなたはおじになる。長男、次男、三男、そしておじき、いまだにね、その会長会はまだ交流していますけどね。そういうふうな中でやっぱり、会長さんたちも、何とか情報を発信して自分たちの中学校をよくしようとしてきた形跡はあるんです。

しかし、生徒会がそういうことに目覚めてくれたというのは、これは初めてです。

だからね、今日、私が皆さん方をお願いしたいのは、この山本会長さんの生徒会での自分の活動の中から、今後の筑紫野市の5中に対しての贈り物、これを大切に育てていってほしい。このことによって、中学校の生徒会が変わる。生徒も変わる。学校そのものがいきいきとなってくるだろうということを今日は確信が持てたような気がします。平和劇も続けてくださいね。いろいろ、皆さん方の活動もこれから続けてください。この山本会長のおっしゃった5中連合体、これが完成するころには、筑紫野市の中学校にいじめとか不登校がなくなるでしょう。期待してやみません。

本当に今日はどうもありがとうございました。

- （事務局） これをもちまして、本日の全ての日程を終了いたします。長時間にわたり、本当にお疲れさまでした。事前準備から二中学生徒会の皆さんも大変お世話になりました。新開校長先生初め教職員の皆様にも大変お世話になりました。ありがとうございました。
- （藤田市長） 本当ですね。新開校長並びに先生方、ありがとうございました。